

Ⅱ-8 スマホより「楽しい！！」を探そう

<エピソード>

ある日、まさ子さんは、3歳児健診にあかりさんを連れてきていました。健診の順番が来るまでまさ子さんは、「静かにしていてね。」と、いつものようにあかりさんにスマートフォンを渡し、自由に使わせました。あかりさんは、スマートフォンの画面に夢中で、静かにしていました。

近くでは、あかりさんと同じくらいの年齢の男の子が、お母さんと一緒に楽しそうに手遊びをしていました。

そんな姿を見てまさ子さんは、次第に楽しそうな二人の様子が気になり始めました。



Work①

まさ子さんは、近くにいる親子や自分の子供の姿を見て、どんなことを感じたでしょう。

Work②

あなたがまさ子さんの立場だったら、少しの待ち時間に自分の子供に対してどのようなことをしますか。

Work③

ひとときの時間を子供と過ごすための工夫について、お互いの工夫や下の資料を参考にグループで体験してみましょう。



資料

＜親子で簡単にできる昔ながらの遊びもあります＞

日本には、親子でできる遊びが沢山あります。歌や言葉、手、体による表現など、遊びながら子供が様々なことを学ぶことができます。例えば、次のような遊びがあります。

- ・連想ゲーム、サイレントゲーム（口の動きを見て言葉を当てる）、しりとり
- ・折り紙、あやとり、なぞなぞ、はやくち言葉
- ・お絵かき（お絵かきしりとり、三目ならべ、じゃんけんと絵）
- ・手遊び（いっぽんばしこちょこちょ、ちゃつぽ、グーチョコキパーでなにつくろう、おべんとうばこのうた）

特別な道具は不要です。ぜひ、試してみてください。



コラム

＜ちょっとした時間には、何も無くてもできる素話（すばなし[※]）を使って楽しく過ごしましょう＞

子どもが楽しい時間を過ごせるように、どんなおもちゃを与えるといいかな？どんな絵本を読んであげるといいだろう…と考えますよね。そこで、ちょっとした時間に何も無くても、楽しく過ごせるのが、口演童話と呼ばれる「素話」です。大好きな人の温かい声に包まれながら過ごすことは、0歳児であっても、「愛されている実感」を感じることが出来ます。

私の娘が5歳の頃には、移動中は決まって素話合戦でした。例えばスーパーが目飛び込んできたら、スーパーをテーマにお話をします。

「あるところに小さなスーパーがありました。みよちゃんは赤いトマトが大嫌い。いつも野菜売り場で、トマトって美味しくないからキライ！と言っていました。それでもお母さんは、トマトを食べると、もっと元気になってお顔もかわいくなっちゃうよ、と言って買っていました。今日もスーパーでみよちゃんが嫌そうな顔をしてトマトを見ていると、どこからか声がします…」

話のオチとしては、声の主はトマトで、そのトマトがみよちゃんに好かれようと泣きながら向かってくるというもの。この話は「恐怖のスーパー」として盛り上がりました。

かたくるしく考えずに様々な場面で使えるのが素話の良さです。



＜出典＞ 就学前の子どもがいるママの為の地域情報誌「teniteo」2016年 9月号

（監修） 名古屋学芸大学 教授・子どもケアセンター長 渡辺 桜氏

※素話：絵本や紙芝居など一切の小道具を使わずに話す素朴なお話のこと